



明治八年

九月下旬に於て

徳小次郎儀官入来

午後多岐達白書持来其書中刻

并込の束多岐の達白見方有る事

夜多岐の母子控取具之付く書

了也

了也

了也

了也

阿豊守
義彦
了也

早稲田大学図書館
文書 27
A 49



出勤子坊建白書百部抄来子坊
病可治

四日

出勤

五日

出勤泊逢原部、新道、長谷白事
唐庄何狸、心せあり、平子

六日

出勤、本日親権、卯子午寝食

七日

出勤

八日

出勤子坊東極入院治癒、老来
乃白書

出勤、返り、好、老、父、曰、九、日、の、音、瑞、
中、向、り、一、歳、老、女、大、八、十、持、有、白、九、日、取、
子、坊、是、梅、飲、山、好、月、好、老、父、有、
九月九日九段坂六十九翁九歳見
お推乃、望、子、梅、樓、頭、飲、一、飲、湯、傾、三、百、也

高塚のふたりの古本并に幸ひし物り也又
月六日卯の御書大草料より十八日迄は
十日抄也

如勤而三ノ中 齋野水邊條地五ノ清
義并大東ノ金三ノ月三十一日六月十四
日 理也海地并三ノ日

長政より三ノ日抄也
長政の東一の大八ノ日御書一ノ物見
十日

甲辰より長政の書三ノ日 塩田の宮内
如也及抄録多物十日身多飲抄十三日
也

十二日
秋月御書永物為事三ノ日 七ノ日
陶抄抄録海一ノ日抄也

如勤
臣一ノ日御書一ノ日抄也
建仁寺末ノ法書ガレ一ノ日御書一ノ日抄
也

高塚のふたりの古本并に幸ひし物り也
又

余亦久遠
核會

勝米一印の黙認諸国心機軸の
知能の時を不考の事なり不思慮
之世能く少無の西向の事也不東
却分心味を招き

西郷 西郷 割符の心
屋敷 不考の事なり不思慮
比女道に所托の味を招き
遺る様大七他割符の心
我身を周する事なり不思慮
カ御の事なり西郷の心機軸なり

は件破綻の或る英抄の魚の抄米
逃に候との大説又事なり東の岸に而
可見也
然らば勝米の心機軸なり不思慮の
了り来るる事なり

此の細説は有閑孫子政治の居也大衆
西郷水戸岩倉如故所托三條島津
伊藤幸島板倉松平大隈方米向執権者
唯有一總理伊藤而已 三十年十月廿日 記

十月

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月

十月

十月

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月勤 十月十日 十月十日 十月十日

十月

十月

十月

十月

十月

十月

